

臨床研究に関するお知らせ

宮崎大学医学部感覚運動医学講座整形外科分野・解剖学講座超微形態分野では、下記の臨床研究を実施しています。皆様及び代諾者の方には本研究の趣旨をご理解頂き、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

研究課題名：鎖骨骨幹部骨折に対する筋温存手術の術式改善を目的とした臨床解剖学的基礎研究

1．研究の概要

鎖骨骨幹部骨折は全骨折の 2.6% に生じる一般的な骨折で、30 歳以下の若い男性に生じることが多いです。スポーツ外傷や交通事故で発生することが多く、転位型鎖骨骨幹部骨折には手術治療が推奨され、主に前下方ならびに上方にプレートを用いて治療を行います。解剖学的には、鎖骨には胸鎖乳突筋、胸鎖乳突筋、大胸筋、三角筋、僧帽筋、鎖骨下筋が付着し、医原性損傷を回避する必要があります。とくに前下方プレートを装着する手術に際しては、鎖骨前面に付着する大胸筋と三角筋に細心の注意を払いながら、一般的なトレーニング種目であるベンチプレスや腕立て伏せで増強される両筋を温存し、術後の運動機能回復を促す必要があります。

これまで、鎖骨の表面に付着する筋を温存する術式(= 筋温存手術)に関する報告は少ないです。以上の研究背景をもとに、鎖骨表面の筋付着部位に関するマッピングをはじめ、鎖骨骨幹部骨折に対する筋温存手術の術式改善を主眼に、術後の運動機能回復にも資する研究基盤の獲得を目指すために、本研究を計画しました。

2．目的

本研究の目的は、鎖骨骨幹部骨折に対する筋温存手術の術式改善のため、鎖骨表面の筋付着部位の詳細を明らかにし、術後の運動機能回復にも資する研究基盤の獲得を目的とします。なお、本研究は、解剖学・整形外科手術の分野における新たな知見を得ることを目的とする学術研究活動として実施されるものです。

3．研究実施予定期間

この研究は、研究機関の長の許可後から 2023 年 3 月まで行われます。

4．対象者

研究機関の長の許可後～2022 年 12 月 31 日に宮崎大学医学部解剖学講座に臓器など一部を教育・研究のために大学に保存することを承諾された方が対象となります。

5．方法

本研究における解剖学的検証は、宮崎大学白菊会を通じて医学・歯学の大学における人体解剖学の教育・研究に寄与することを目的に献体された御遺体を用いて、医学部の学生を対象とした解剖学実習と並行して実施します。はじめに、解剖学実習で広頸筋が切離された後、鎖骨に付着する筋を同定し、胸鎖乳突筋・僧帽筋・三角筋・大胸筋の付着部を約 1 cm ずつ残して各筋を切断します。続いて、Locking plate の装着に関係しない鎖骨下筋や関節包、靱帯をはじめとする軟部組織を切離した後、鎖骨を採取します。次に、切離した鎖骨を単純 CT 検査にてデータ化します。採取した鎖骨の遠位端・鎖骨近位端を目印に、各筋の付着部を電子キャリパーで 2 人の検者が別々に 2 回ずつ

作成日

2021年10月18日 第1版作成

2022年 8月24日 第2版作成

つ計測します。次に、計測された鎖骨の単純 CT 画像を撮影し、3D テンプレートソフトウェア：MIMICS 23.0 を用いて立体画像を作製します。得られた画像に実際の手術と同様、Locking plate を重ね合わせ、筋付着部の損傷範囲を計測します。さらに必要に応じて筋付着部の顕微鏡標本作製し、各種 10)組織化学的検討も加える。鎖骨骨幹部骨折の整復手術として plate が装着された術後画像から測定される筋付着部の損傷範囲と運動機能回復の相関を明らかにする臨床研究へと進む計画です。試料を用いる際は、匿名化されているもの（特定の個人を識別することができないものに限る）とし、研究の結果を公表する際は、研究対象者を特定できる情報を含めないようにします。また、研究の目的以外に、研究で得られた研究対象者の試料等を使用いたしません。

本学における個人情報・試料の管理者

宮崎大学医学部附属病院整形外科 今里 浩之

6．疑問、質問あるいは苦情があった場合の連絡先

この研究に関して疑問、質問あるいは苦情があった場合は下記連絡先へ連絡をお願い致します。

宮崎大学医学部附属病院整形外科

今里浩之

TEL 0985-85-0986（内線 2221）

FAX：0985- 84-2931